

# 修了生の活躍事例

インタビュー日：令和5年12月22日

## 「自分を変えたい」ことがきっかけ

前職はコンビニエンスストアの店員として働いていましたが、常に不安定さを感じていましたので、別の業種への転職を考えていました。年齢的にも最後のチャンスと思い、職業訓練の受講を決めました。静岡ポリテクセンターは静岡市にあり、私の住む浜松市からは遠かったのですが、自分を変えたいという意思が揺らくことはなく応募をしました。

過去に経験を持つ父からの影響もあり、溶接のコースを希望しました。アーク溶接の作業を見た限りでは簡単に真似できると思っていたのですが、実際は何度やってみても上手くいかず、認識が甘かったことを痛感しました。また専門用語や技術的な内容がなかなか理解できない時間がしばらく続きました。しかし先生たちから粘り強く懇切丁寧な御指導をいただき、勘のみに頼らずに少しずつ論理的に考えて作業ができるようになりました。

## 昨日より今日はずっと上手に！

芝原工業株式会社の工場見学で現場を見たり説明を聞いたりするうちに、自分も製造メンバーと一緒に働きたいと強く思うようになりました。現在は、工作機械の制御ボックスをはじめ、様々な部品の溶接工程を担当しています。当初は、しっかり接合することばかりに意識が向いていましたが、最近では人の目に触れる箇所は見た目にも気を配る、支持部に使用されるものは強度を確保することを重要視するなど、作業のやり方に変化をつけられるようになりました。もっと上手くできるようにするにはどうすればよいかを毎日考えて努力してきたことで、任せてもらえる作業の種類も増えました。

## 芝原工業株式会社 (静岡県磐田市)

各種機械装置に使用される板金製品を製造。高精度・高气密性の要求にも対応する、独自で卓越した技術力と最新鋭の設備を保有する。高品質かつ高付加価値の製品を提供しており、国内外を問わず多くの分野で利用されている。

(製品例)

- ・半導体製造装置
- ・産業用機械装置
- ・工作機械装置
- ・分電盤/配電盤



企業外観

## 芝原工業株式会社

## 宮津 惇 さん (38歳)

[ ⇒ 前職 : ストア店員 ]

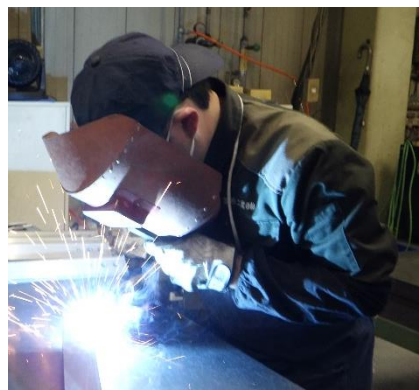
## ものづくり溶接科

令和3年12月入所

令和4年5月修了



宮津さん



マグ溶接でスタンドを溶接中

## 悩むより慣れることが大切

まったく経験のない異業種に飛び込むことは非常に不安でした。前述したようにポリテクセンターで職業訓練を受講しているときは思うようにいかないことのほうが多く、溶接の仕事に就くことを諦めようかと真剣に悩みました。しかし、失敗を恐れることで時間を使うより、できるように努力を続けていくことのほうがよいと考えるようになりました。「こんな初歩的な質問をするのは恥ずかしい」と思っていた自分ですが、しばらくすると先生に対して遠慮をすることもなくなりました。そのような思考に慣れてくると、自分に自信が持てるようになりました。

## 採用者の声 製造部 次長 與五澤 祐一 様

私たちの製品はチーム一丸となって製作していきます。よってその人が持つ技量より以前に、親しみやすい人柄や誠実さがなければ高い品質のものを生み出せません。彼に会ったとき、真面目で素直な印象を受けました。きっとチームにもすぐに同調してくれるとも感じました。非常に努力家で技量も向上しているので、これからも期待しています。

